

## (病害虫発生情報)

平成22年8月11日



穂いもちの発生は平年に比べて少ない予想です。粉剤や液剤で穂いもちの防除を行う場合、出穂前後の2回散布しましょう。出穂している方で、天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後7～10日目に再度防除を行いましょう。

なお、長期持続型箱施用剤を使用し、葉いもちの発生がない場合は出穂前の防除を削除できます。

トビイロウンカの発生は平年並みです。今後幼虫が最も多くなる8月26日～9月2日頃に圃場を確認し、成虫及び幼虫が1株当たり5頭以上確認される場合は防除しましょう。





コブノメイガの発生は平年に比べやや多い予想です。  
中性種の防除は8月下旬の成虫払い出し調査で成虫が1 m<sup>2</sup>当たり5頭以上確認された防除が必要です。粉剤や液剤での防除は8月28日～9月24日頃に行いましょう。

斑点米カメムシ類の発生は平年並みの予想です。  
8月上旬に出穂するイネでは粉剤や液剤で防除を行う場合、穂揃期とその7日後の2回行ないましょう。それ以降に出穂するイネでも穂揃期の防除が必要です。なお、草刈りは出穂2週間前までに行い、その後はイネ科雑草の穂が出る前に再度草刈りをするなどして、雑草の穂が出ないように管理しましょう。

